

会津の冬と初市

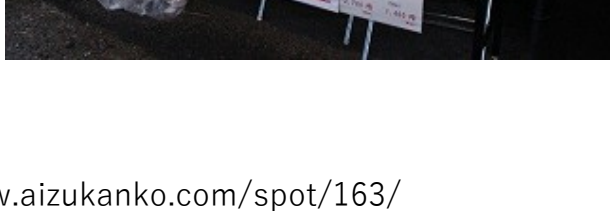
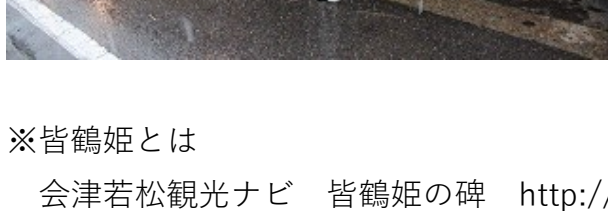
新年を迎えた会津地域では、1月の10日前後に各所で初市が開催されます。なかでも、会津地域最大の初市として知られる会津若松市の「十日市（とおかいち）」には、地域内外から毎年15万人以上が訪れる活気あふれる新春の風物詩となっています。四季を通じて楽しめる会津若松市ですが、特に雪が降り積もり凛とした景色となる冬の季節は、どの季節にも増して情緒が溢れています。ゆっくりと過ぎる時間の中で、風情ある冬の会津若松市を巡るのはいかがでしょうか。今回は、会津若松市内の初市を中心に冬の会津をご紹介します。

会津かわひがし八日市

会津若松市河東町にある広田駅前にて、皆鶴八日市から名を変えて開催されている初市です。

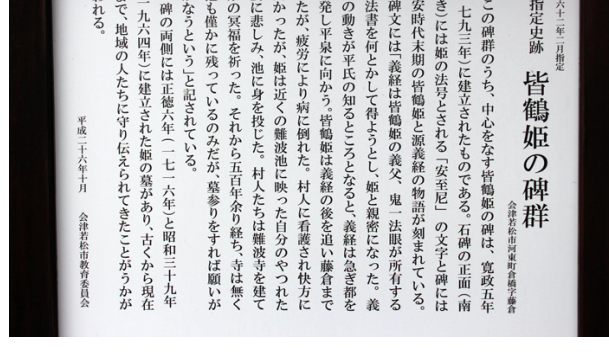
地元商工会や商店会等による甘酒の振る舞い、縁起物や地元の農産物・特産品の販売が行われ、大きな呼び込みの音が響いていました。地域の住民が新年の挨拶を交わすなど活気溢れる雰囲気は、なんと気分が良いものです。地元の保育園児も遊びに来ていましたよ。

(撮影日：2016/1/8)



※皆鶴姫とは

会津若松観光ナビ 皆鶴姫の碑 <http://www.aizukanko.com/spot/163/>



十日市

会津地域最大の初市で、400年以上前から続く伝統行事です。

400以上の出店が並び、起き上がり小法師や風車、市飴、だるまなどの縁起物や、

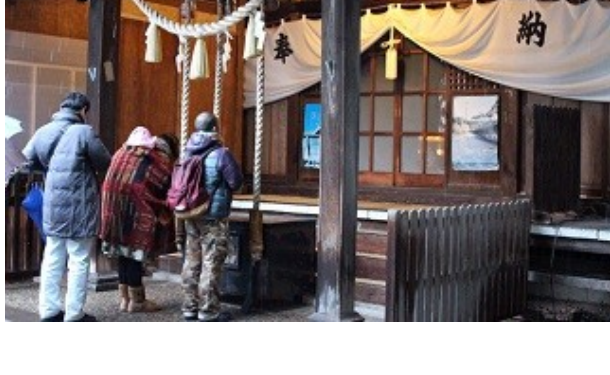
日用雑貨、漆器、飲食物といった様々な商品が並びます。

毎年15万人以上が訪れる新春の一大イベントです。

例年のこの日は雪が降りますが、今年は暖冬により雨。

十日市のメインストリートである神明通り商店街のアーケードの架け替え工事（十日市当日はアーケードが撤去された状態）も重なり、傘がぶつかるほどの大勢の人々で賑わっていました。

(撮影日：2016/1/10)



猪苗代湖

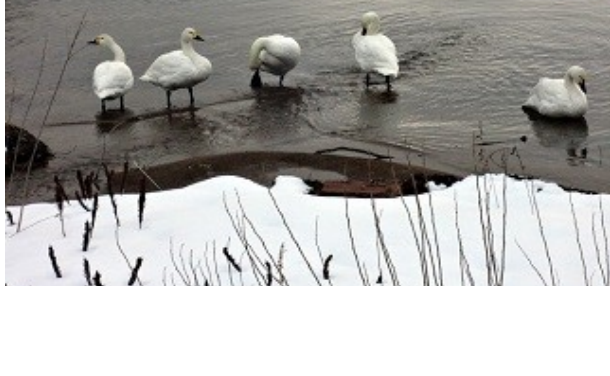
福島県を代表する、日本で4番目に広い湖が猪苗代湖です。

例年、北国から飛来した多くの白鳥が湖面で羽を休める様子が見られます。

また、湖水が強い風にあおられて、岸辺の樹木に氷着した「しぶき氷」もこの時期にしか見られない風景です。

これを楽しみに訪れる観光客や地元の人々で、猪苗代湖畔は寒さにも負けない賑わいを見せます。

(撮影日：2016/1/28)



白虎隊古戦場跡

戊辰戦争における、会津藩白虎隊士と薩長軍との激戦地です。

会津藩の藩境は、西軍の圧倒的な兵力で突破されてしまいます。

16～17歳の少年たちが編成された白虎士中二番隊20人がこの場から退却し、戸の口堰の洞門をくぐり飯盛山にたどり着きました。

しかし、鶴ヶ城の天守閣は黒煙の中に見え隠れし、「城は陥落したか、今は主君のために殉じよう」と、全員が自決しました。

(撮影日：2016/1/28)



切立橋

現在の東京電力猪苗代第四発電所建設時に、資材輸送用軌道を敷設した際、日橋川に架橋された橋です。

橋梁技術が発展していたドイツで製作され、九州で使われていたものが会津へ転活用されました。日本へ輸入されたプレハブ橋はこの橋を含め2橋だけとなり、歴史の価値のある橋となりました。美しい姿の橋からは歴史の重みも感じます。

冬の季節にぴったりな、ノスタルジックな雰囲気が漂う景色です。

(撮影日：2016/2/4)



詳しくは、会津地域産業観光ガイドへ → <http://aizu-industrial-tourism.com/>

会津絵ろうそくまつり



雪の上に灯る和の光が、城下町にマッチしてとてもロマンチックな雰囲気を漂わせていました。

会津の絵ろうそくの歴史は、会津藩主・蘆名盛信公により、漆樹の栽培が奨励されたことからはじまります。

漆の樹液は天然樹脂塗料として漆器に、漆の実は「蠟分」という成分を含んでおり、この蠟分を絞って出して、蠟燭の原料が作られるようになりました。やがて、蠟燭に絵が描かれ、生花が手に入りにくい冬季間や仏前に捧げる灯明として供えられました。

(撮影日：2016/2/12)

